



校長室だより

令和6年度

9月18日

NO.25

想像してみよう…本の世界、周りのこと、これから先のこと!!



蜂須賀先生を招いての算数の授業(5年生)

学校図書電算化進行中

2学期最初「さえずり」さんの読み聞かせ

学校図書館関係の仕事をしている中で、長年の希望だったのが、学校図書の電算化(PCによる学校図書管理)でした。近隣の市では十年以上に全校、電算化がなされ、中には市の図書館と情報が連携されている市もあります。本年度、岡崎市の力で電算化を進めてもらえることとなり、やっとなのですが、一つ念願が叶った感じです。十月の貸出開始がとても楽しみです。

二学期最初の「さえずり」さんによる読み聞かせが十一日、スタートしました。「さえずり」の方々も楽しそうに子供たちに本を読み届けてくださり、子供とともに見ている自分も楽しい気持ちになります。読み聞かせのその本の感じ方は、子供に任せられます。感じるや想像することに正誤はありません。この夏に読んだ本「池上彰が大切にしているタテの想像力とヨコの想像力」(講談社・新書)の中でも、想像力を養うには読み聞かせや読書が良いと書かれており、読書の重要性を感じました。

「想像力」というと、どこか妄想的でマイナスに受け取る人もいますが、学校教育ではとても大切なものです。国語科の目標の中にも「日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う」とあるように、考える力と並んで想像する力が求められています。日常生活の中では、例えば、人の気持ちを考えたり、これからの学習や出来事に見通しをもったりすることも想像力になります。

十七日には岡崎女子大学の蜂須賀先生をお迎えして、秦梨小学校の授業を見ていただきました。お聞きしたお話の中で「子供が主体的に活動するには『見通し』が必要、そして先生も子供も、今の状況から次に進めたり、学びを深めたりするのに「ちがう視点」が必要だという話に納得しました。周りやこれからを見通す想像力を、大事にしていきたくて強く感じました。

- ・学校図書電算化にお手伝いいただいた「はだぼら」の皆様、ご協力ありがとうございました。また、学校図書データの受け入れの方も、支援員の三木先生の協力で進んでおります。
- ・「さえずり」さんの読み聞かせ 「これはのみのびこ」(谷川俊太郎)、「月夜のおおさわぎ」(九州国立博物館)、「いのししのすもう」(吉田タキノ)、「なんだかぼくにわかったぞ」(かこさとし)、「カフンチョウ」(こまつぶえ)、「1まいのがようし」(長坂真護)、「しろいやさしいぞうのはなし」(かこさとし)、「ないたあかおに」(浜田広介)、「ぼくのなまえはダメ!」(ミカド717)